



プレスリリース

2019年7月22日

アムンディ・ジャパン株式会社

アムンディは、『ワン・プラネット・ソブリンウェルスファンド・アセットマネジャー・イニシアチブ』 の設立メンバーになりました

2019年7月10日、パリ — 欧州最大の資産運用会社アムンディは、ポートフォリオマネジメントに気候変動分析を導入することを推進しているワン・プラネット・ソブリンウェルスファンド（OPSWF）ワーキンググループの活動を全面的に支援しています。

他の7つの運用会社とともに、アムンディは、OPSWF アセットマネジャー・イニシアチブの設立メンバーになりました。このイニシアチブは OPSWF のメンバーによるフレームワーク実現を支援するもので、同フレームワークには大規模、長期的かつ多角的なファンド運用に気候変動分析を統合することを推進するための3原則が掲げられています。

この重要なイニシアチブは、設立以来企業理念の4つの柱のひとつとして責任投資を掲げてきたアムンディの方針と完全に合致しています。

アムンディはすでに約2800億ユーロの資産をESG基準に従って運用しています。責任投資のパイオニアであり、これに長く取り組んできたアムンディは、2018年10月に新たな3カ年の意欲的なESGアクションプランを発表しました。

- 第一に、2021年までに全ファンドを対象にESG分析を統合
- 第二に、環境または社会に影響を与えるプロジェクトに対する投資推進の取組みを倍増

アムンディは責任投資においていくつもの重要な取組みを行ってきました。たとえば昨年はIFC（国際金融公社）と共に、新興国を対象とする世界最大のグリーンボンドを設定し、また今週初めには欧州債券市場における新グリーンセグメントのさらなる発展のため、EIB（欧州投資銀行）と新たなパートナーシップを結んだことを発表しました。

アムンディ CEO イヴ・ペリエは、次のように述べています。

「ソブリンウェルスファンドが気候変動に取り組んでいることを大変嬉しく思っています。これは数年来のアムンディの姿勢と完全に一致しています。また互いに長期投資というスタンスと受益者に対し長くベストパフォーマンスを提供するという義務を共有しているのですから、これは全く自然な流れといえるでしょう。」

アムンディについて

アムンディはフランス・パリに本拠を置き、世界 6 都市の主要な運用拠点^{※1}を通じて約 180 兆円^{※2}の資産を運用する、欧州 No. 1^{※3}、世界トップ 10^{※3}の資産運用会社です。2015 年 11 月ユーロネクスト・パリ市場に上場し、世界 37 の国・地域の事業拠点で競争力の高い運用ソリューションを提供しています。アムンディの一貫した目標は、日本でもグローバルでも、お客さま本位のビジネスの実行で、個人投資家および機関投資家に対し、革新的で透明性の高い運用ソリューションの提供に努めています。

信頼こそ、私たちの資産。 アムンディ

公式ウェブサイト：amundi.co.jp

- 1 主要運用拠点：ボストン ダブリン ロンドン ミラノ パリ 東京（アルファベット順）
- 2 運用資産額は、2018 年 12 月末日現在。約 1 兆 4,250 億ユーロ、1 ユーロ=127 円で換算
- 3 出所：インベストメント・ベンション・ヨーロッパによる資産運用会社トップ 400 社（2019 年 6 月版、2018 年 12 月末日の運用資産額）に基づく。

本件に関するお問合せ先：アムンディ・ジャパン株式会社 広報室
e-mail：pr@jp.amundi.com 直通：03-3593-5700
R1907066



商号等：アムンディ・ジャパン株式会社(金融商品取引業者)
登録番号 関東財務局長(金商)第350号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会